■平成 29 年度発表論文一覧

横澤　富士子『子育てとカウンセリングを通して体験した事の記録と考査』

山口　久男『糸魚川姫川流域における自然災害・歴史・文化に関する研究』

小野　雅春『長者ケ原考古館の案内方法に関する研究』

松嶋　洋子『糸魚川市駅北復興まちづくり計画と糸魚川沖の漁業をテーマにした
ジオサイトの研究』

大竹　正人『Internet を用いた GEO PARK 学における環境保護と利用促進の在り方に
関する研究』

西連寺　志穂『糸魚川の空間と地域資源から活性できる地域コミュニティー計画』

竹内　愼治『雑木林を活用した美山わんぱく広場の整備プロジェクトに関する研究
“ジオトープづくりの考え方に基づいて”』

島田　由起子『糸魚川市浦本地区における地形と施設の有効利用に関する研究』

内山　伸一『糸魚川市大規模火災について風土と歴史から考察した火災のない街創りに
関する研究』

武田　尚子『平成 29 年度　糸魚川ジオパークカレッジ　一年生「体験の記」』

立川　節子『糸魚川地域における水道水と自然の関わりについての考察』

■平成 29 年度発表論文概要

子育てとカウンセリングを通して体験した事の記録と考査

横澤　富士子（*Fujiko Yokosawa*）

著者は、平成 11 年 4 月 1 日から今日に至るまで新潟県の糸魚川市役所教育委員会こども課の教育相談センター子ども主任教育相談員として勤務してきた。採用当時は、不登校児童、生徒の家庭訪問指導員という立場からのスタートだった。主な職務内容は、何らかの理由で学校に登校することのできない家庭を訪問して、保護者や子どもに出会い、関わり、お話を聴かせて頂きながら、一緒に問題解決のためにできることを模索していく。

もっと分かりやすくすれば、学校に行きたいけれど行くことができなくなった子どもの心のエネルギーを少しずつ充電して、子ども自身に自信を取り戻していくことを一緒にする。子どもと関わりながら保護者や学校の先生と連携して、問題を解決していく中で大切にしていることをまとめたい。子どもと関わる中で、どうすれば本来の子どもの良さに気づいていただけるのか。保護者がカウンセリングを通して、成長した子どもの良さに気づかれていく過程に実は解決の糸口の宝である。また著者が 3 人の母親という立場から、子育てを通して体験した事を振り返り考察したい。

糸魚川姫川流域における自然災害・歴史・文化に関する研究

山口久男（*Hisao-Yamaguchi* ）

新潟県糸魚川市には、ヒスイの流れる河川の一つに「姫川」がある。

「姫川」は、長野県北安曇郡白馬村の親海湿原を源流として、Fossa Magna の西側、糸魚川―静岡構造線に沿って流れ、支流の小滝川、根知川などが合流し、日本海にそそぐ延長 60 km（長野県 35 km・新潟県 25 km）の河川である。

古来より、この川の流域にほぼ沿って、塩の道（松本街道）があり、川原や海岸で縄文人がヒスイを採取し大珠や勾玉を制作した。また、日本の東西文化の境目に位置し、河川を境にして、地質の違いが見られる。

「姫川」源流の湧水は、名水百選にも選定され、水質ランキングで、幾度となく日本一に輝いている。この河川の中流では V 字谷（渓谷）が蛇行し、急流であり、地すべり地形が広く分布し、自然災害が多発している。これらの事から

姫川流域を基準に歴史、文化や自然との共存を模索し、特徴や魅力を伝え、地域の発展に寄与すべく調査研究を行った。

長者ケ原考古館の案内方法に関する研究

小野雅春（*Masaharu－Ono* ）

堅いイメージのある博物館をガイドによる案内で楽しんで頂くため、昨年は新潟県糸魚川市のフォッサマグナミュージアムを対象に実績を元に案内方法を論文にまとめ成果を上げている。入館者がその 1 割程度と人気薄の隣接する長者ケ原考古館についてもとの声があり、ミュージアムの論文を元に考古館についても案内方法を検討し、一定の成果が確認されたので、歴史的博物館の案内方法として提案したい。

糸魚川市駅北復興まちづくり計画と糸魚川沖の漁業をテーマにしたジオサイトの研究

松嶋　洋子（*Youko-Matushima* ）

2016 年 12 月 22 日に新潟県糸魚川市で発生した火災は、中心市街地である糸魚川駅北側の約 4 ヘクタールに延焼し、住宅や店舗などと共に貴重な歴史的文化的財産を焼失した。2017 年 8 月、糸魚川市駅北復興まちづくり計画が策定され地域の総力を挙げて復興に取り組んでいる。この復興計画に「新たなにぎわい創出拠点の整備」として「防災とにぎわいの拠点施設の整備」「日本海と海の幸を生かした誘客の強化」「海望施設の検討」が盛り込まれている。著者は、「日本海と海の幸を生かした誘客の強化」に着目し漁業や水産業を生業とする人の育成を見据えた計画が必要と考え、糸魚川駅の立地条件を生かして、漁業をテーマにしたジオサイト（施設）を整備することにより地域の人から漁業と水産業に関心を持って貰うと共に交流人口の拡大を図ることを考えた。方法として、海の展望にとどめず糸魚川市沖合の海底の地形や潮流とそこに生息している魚の様子を映像で再現し、漁業は森の恵みを受けているので糸魚川沖の漁場とジオサイトにもなっているブナ林を関連させ海と森の循環など資源豊かな糸魚川市沖合いの海底の特殊性を広く学べる施設を整備することを考えた。これにより、糸魚川地域全体が生態系の理想的な循環とそこに住む人々の固有文化を題材に日本海に一番近い新幹線駅のイメージアップを図り交流人口の拡大と地元商店街の振興を図る研究を行う。

Internet を用いた GEO PARK 学における環境保護と利用促進の在り方に関する研究

大竹正人（*Masato-Ohtake* ）

2009 年 2 月に新潟県糸魚川市においてインターネットショップ「越後屋ええもん本舗」を開設する中で、世界糸魚川ジオパーク活動の理解度・価値観を眺めてきたが、発信提供方法不足の偏りや、見直すべき視点があるように感じた。そこで全国に向けて顧客アンケートを取り、何が満たされず、何を望んでいるのか価値観を考察し、地域資源の活性化について今後の方向性を研究することとした。

糸魚川の空間と地域資源から活性できる地域コミュニティー計画

西連地 志穂（Ｄｒ・Shiho－Sairenji）

新潟県糸魚川市は、近年、消滅にむけて歩を一歩ずつ進めている。若者の流出を主因とする人口減少・少子高齢化が著しいのである。私も糸魚川を離れた一人だ。そのきっかけは大学進学であったが、学術活動を突き詰めた先には、糸魚川の魅力があった。21 世紀に入り、日本は今「つながり」を主軸とする社会へと向かっている。「つながり」へ向かう消費傾向とそれをサポートする技術革新は非常に活発である。この社会変遷の中で、人と自然をつなぐ「学び」本来の役割が重要となっている。本稿では、人と自然の「つながり」を実感できる実空間である「地域」に着目し、糸魚川でのつながりのための一案として、「糸魚川の学び舎カフェ」を提案する。

雑木林を活用した美山わんぱく広場の整備プロジェクトに関する研究
"ジオトープづくりの考え方に基づいて"

竹内　愼治(*Takeuchi　Shinji*)

新潟県の西端に位置する当糸魚川地域は、糸魚川ユネスコ世界ジオパークに認定されており、自然の価値が世界的に高く評価されている地域である。特に、翡翠の産地として有名である。本研究の対象であるわんぱく広場は、糸魚川市内中央の高台（標高約 100m）にあり美山公園・博物館ジオサイトに指定されている場所にある。この周辺には、フォッサマグナミュージアム・長者ケ原考古館などの博物館や長者ケ原遺跡公園、そして野球場や陸上競技場などのスポーツ施設があり、春はお花見、夏はキャンプ、秋は紅葉と季節ごとに楽しめる市民憩いの場所となっている。また、わんぱく広場には、子どもたちが元気に遊べる複合遊具やロッキング遊具などが設置されており、家族連れに人気の場所となっている。

本研究の目標は、このわんぱく広場の周囲に広がるコナラを中心とした雑木林を活用して、自然に親しみながら遊ぶことのできる場所を整備することにある。ねらいは、長者ケ原遺跡公園周辺の自然と遺跡の保護や教育活動、ジオツーリズムを通じた地域振興にある。なお、雑木林の整備にあたっては、※ジオトープづくりの考え方に基づいて、地形や地質を基盤とした生態系を包括した総合的な環境づくりを目指す。

糸魚川市浦本地区における地形と施設の有効活用に関する研究

島田　由起子（*Yukiko-Shimada* ）

平成 29 年 11 月に津波ハザードマップが更新された。糸魚川市浦本地区は、海岸に沿って東西に細長く平野部が狭く山が迫っている。そのため住宅が海岸線沿いに集中している。大きな地震発生後すぐに津波が到達し、大きな被害を受ける可能性が極めて高い。現在避難場所として指定されている場所は 5 箇所。ここへ避難するにあたり、地震が起こり津波の危

険が出た場合、津波影響開始時間は 5 分以内。高齢者や足の悪い人が逃げ切れるのか、実際に歩き検証した。

糸魚川市大規模火災について風土と歴史から考察した火災のない街創りに関する研究

内山　伸一（*Shinich Uchiyama*）

新潟県糸魚川市の糸魚川地区長者ヶ原遺跡・青海地区寺地遺跡の勾玉は、ここで生産された硬玉製品である。北陸地方から日本海ルートで伝播された。万葉集に「奴名河の底なる玉求めて得し玉かも捨いて得まし玉かも惜しき君が老ゆく惜しくも」万葉集にヒスイを暗示する。越中国(富山県と新潟県の堺)越後の西頸城郡(糸魚川市)の「浜通」を経て高田城下、陀羅尼口を通過して高田町札の辻までの十里である。地域によっては越中路といい、西浜で(糸魚川市）「上道」といった。糸魚川町では加賀藩の加賀百万石の宿泊の起点となった。松本街道の起点は、糸魚川町横町で現在の 148 線と国道 8 号の交差点である。ここを起点として南にのびる白馬通り商店街とその周辺(横町・大町・新田)塩問屋、四十物問屋、ポッ茶屋等が軒を連ね荷の集積、配分取引の場となったところである。こうした街の文化は近代日本における地域独自の景観を持ち人々に懐かしさとなごみを与える反面、歴史上木造家屋も多く道も狭い難点がある事は否めない。又糸魚川独自の風土によりその地形と地理から様々な季節風が駆け抜け、時には大きな災害となって我々に振りかかる。こうした中著者が長年暮らす糸魚川において災害の実情と今後の対策を考え、未来に繋げたいと考え一定の研究成果を求めた。

平成２９年度　糸魚川ジオパークカレッジ　一年生「体験の記」

武田　尚子（*Naoko-Takeda* ）

ジオパークカレッジに在籍する中で感じたこと、考えたこと、体験したこと等について、第１章から、第６章に分けて「体験記」としてまとめてみた。

第１章では、糸魚川ジオパークカレッジ受講の動機。第２章では糸魚川ジオパーク２４のジオサイトにまつわる思い出。第３章では糸魚川ジオパーク検定受験で感じた事。そして、その後「糸魚川ジオパークを守ろう協力の会」を発足したらいいのではないかと考えた事。第４章では、糸魚川ジオパークカレッジ論文提出について考えた事。第５章では歌に誘われてと題して「青い海と石の町から」の歌について。第６章では、本年のまとめと次年度への抱負を記した。

糸魚川地域における水道水と自然の関わりについての考察

立川　節子（*Setuko-Tachikawa* ）

蛇口をひねれば水が出る。当たり前の事として受け止めていたが、著者が幼少の頃は家庭で井戸水をポンプで汲み上げるのは、著者の仕事であった。その後上水道が普及し水道の水を飲んでみおいしいと感じていいと感じていた。
この水道水はどう作られているのか、どこからくるのか、おいしさと大地や自然との関わりはどうなのかを明らかにし、ジオパークの地域から発信していきたい。